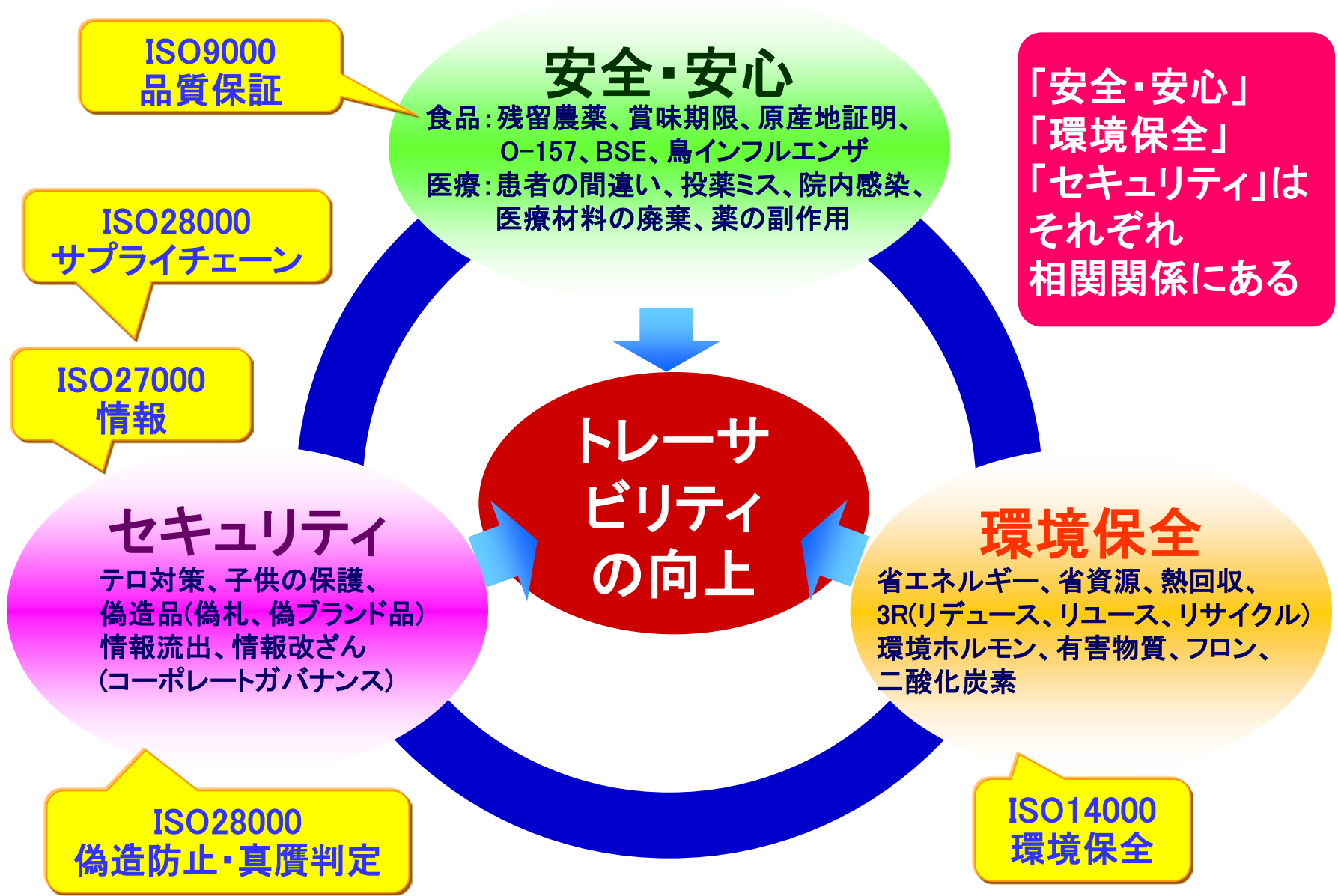
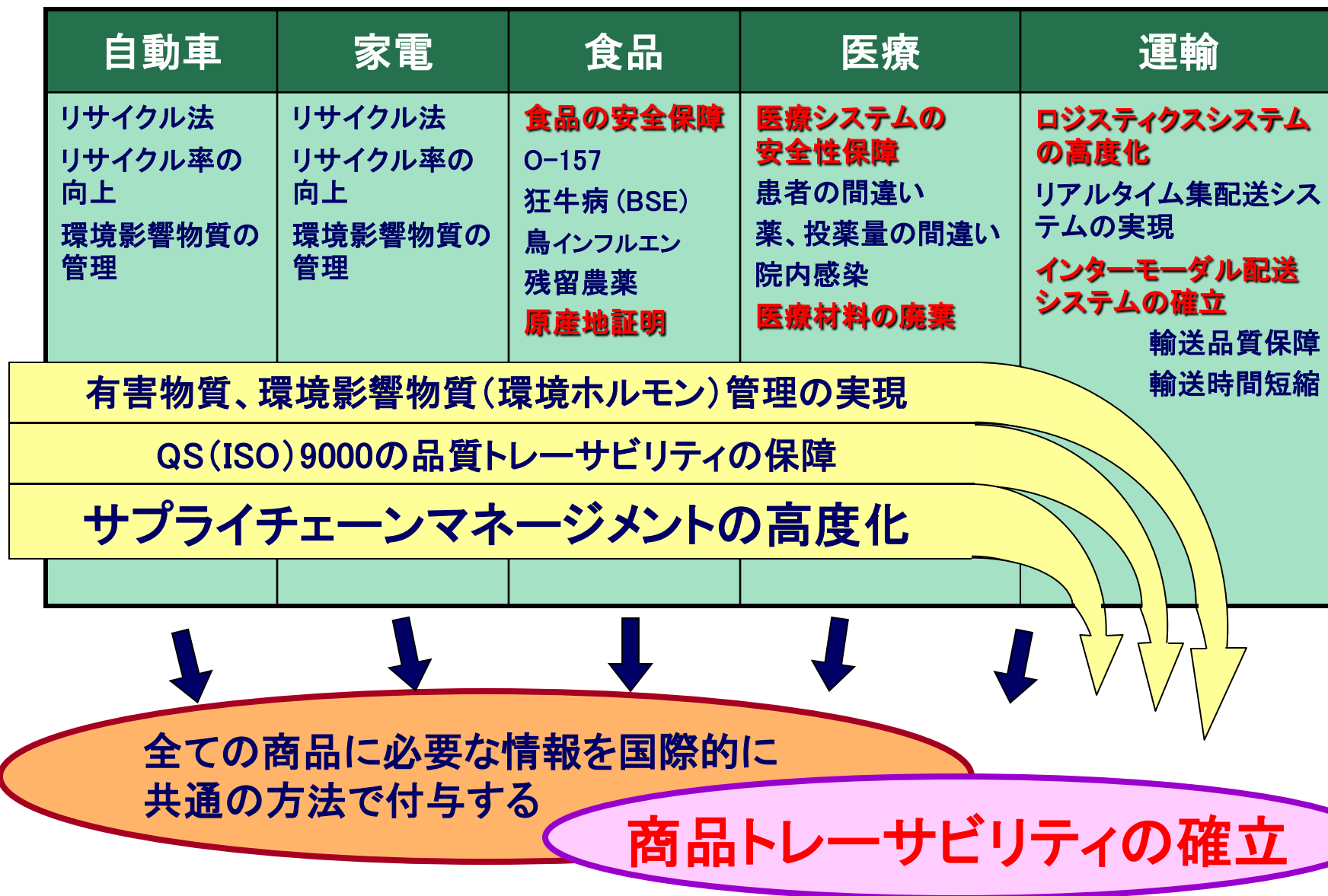


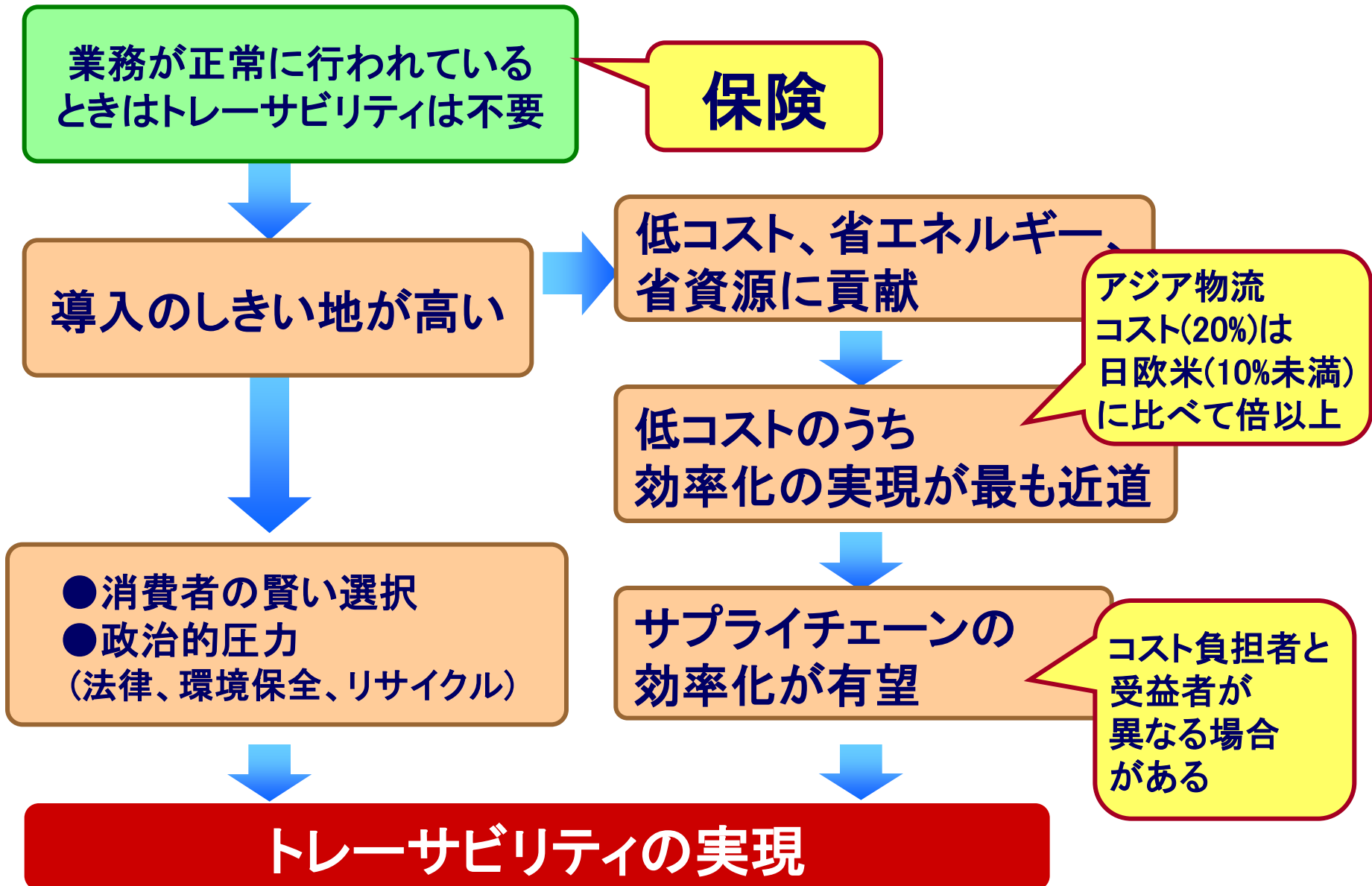
# 市場ニーズと 自動認識技術の本質



# 日本の産業分野での緊急課題



# トレーサビリティの本質



# データキャリアシステム

## ビジネスモデル

- B to B
- B to C
- C to C

## インフラのレベル

- 電力
- 電話/携帯電話
- デジタル通信
- インターネット/LAN
- 教育
- 技術/技能

ネット  
ワーク  
システム

## 設計プロセス

市場ニーズの検証  
↓  
基本システム設計  
↓  
データ内容の決定  
↓  
データキャリアの選定  
↓  
試行  
↓  
システム設計変更

## 対象範囲

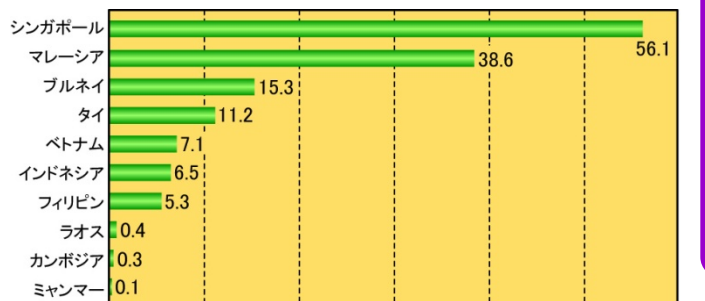
- 個人
- 企業
- 企業グループ
- 業界
- 全業界

## 対象地域

- 国内
- 二国間
- 経済圏
- 地球規模

・EU  
・NAFTA  
・ASEAN

## インターネットのユーザー数



100人あたりインターネットユーザー数(人)

※日本は100人あたり50,2人

- システムは存在するか？
- 現状システムをどのように新システムに移行するか？
- 画一的な方法は可能か？

国際用途は  
技術/システムの  
多様性が必要

# 自動認識技術の本質

## 自動認識技術

データベース内のデータと  
対象とを比較認証する技術

自動認識技術を導入するためには、  
すでにデータベースが存在することが条件

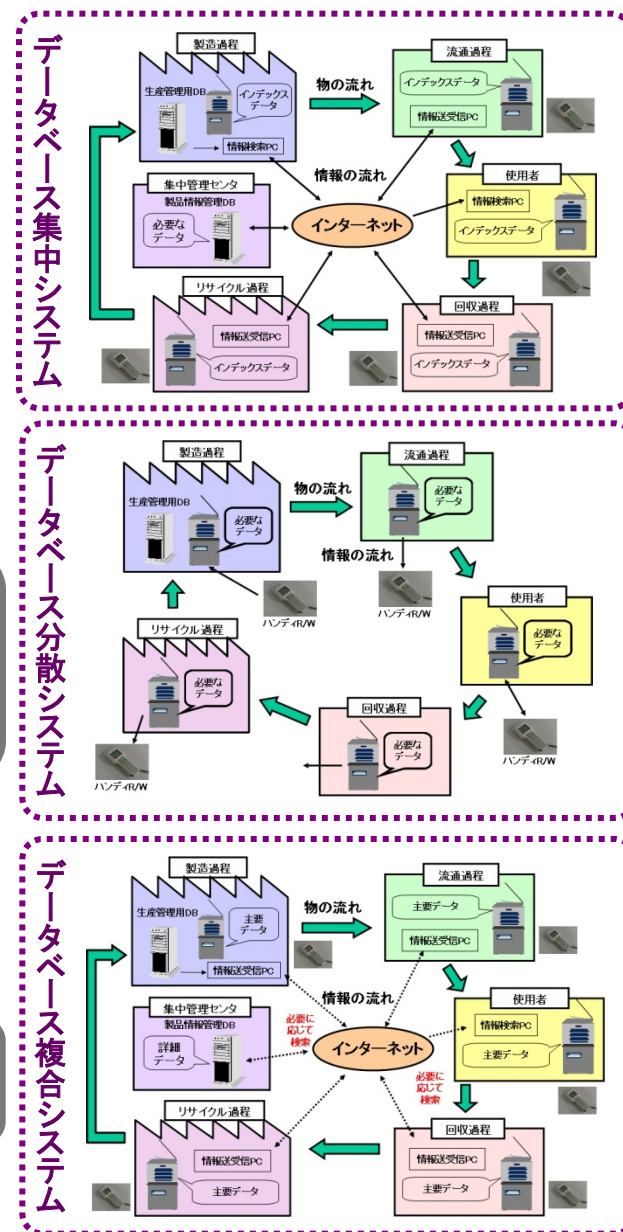
- データベース集中システム  
ネットワークオンライン
- データベース分散システム  
スタンドアロン
- データベース複合システム

ネットワーク上の  
データベース  
へのアクセスは  
効率低下か？

データベースシステムの形態により  
使用される自動認識技術が異なる

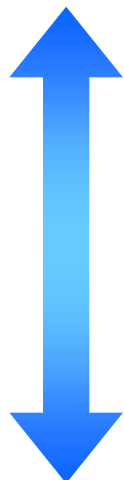
- 1次元シンボル
- 2次元シンボル
- 磁気カード
- ICカード
- RFID
- バイオメトリクス

読み取り動作は  
非効率か？

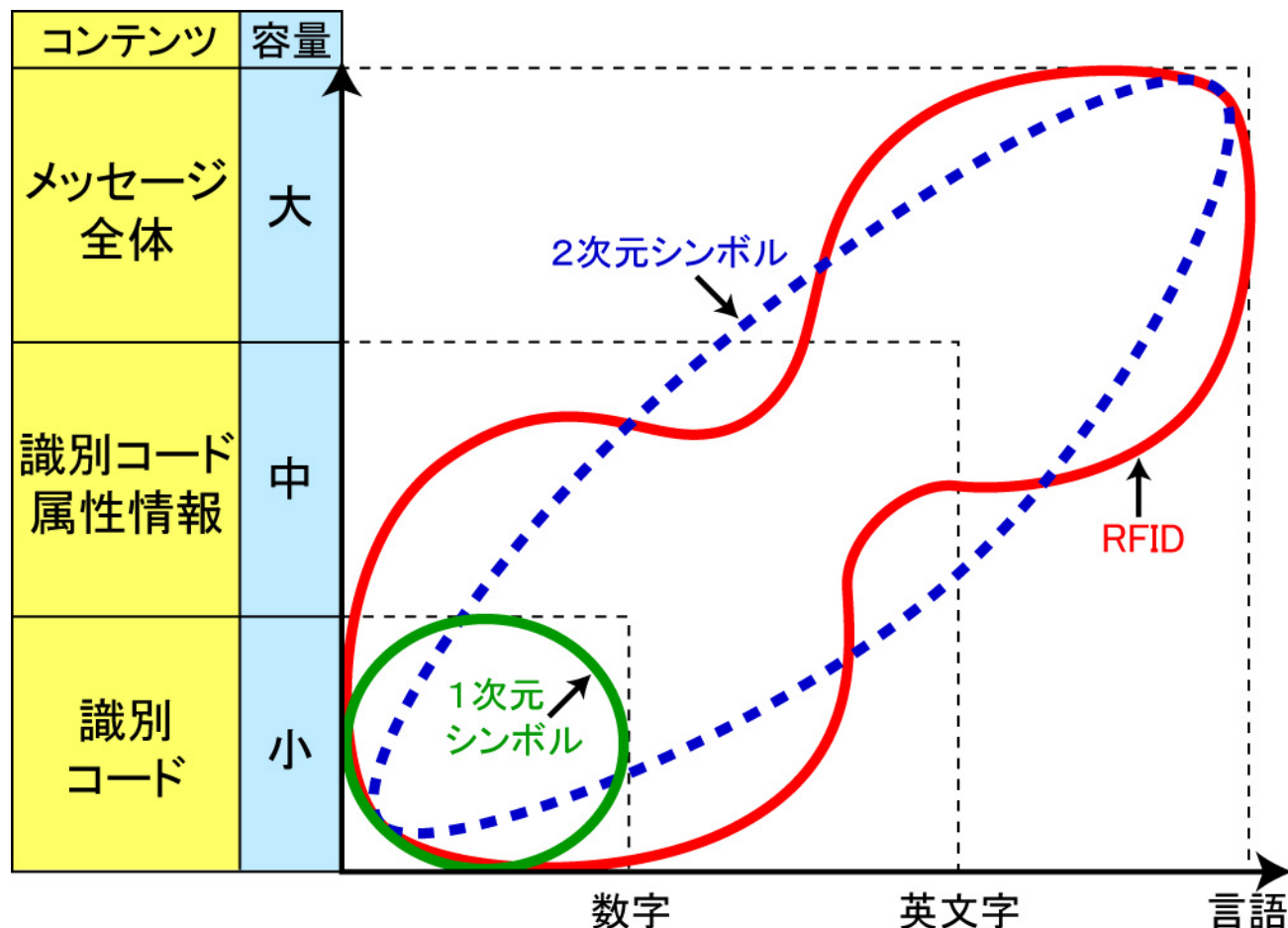


# ICTとデータキャリア

- 分散型データベース
- スタンドアロンシステム
- オープンシステム



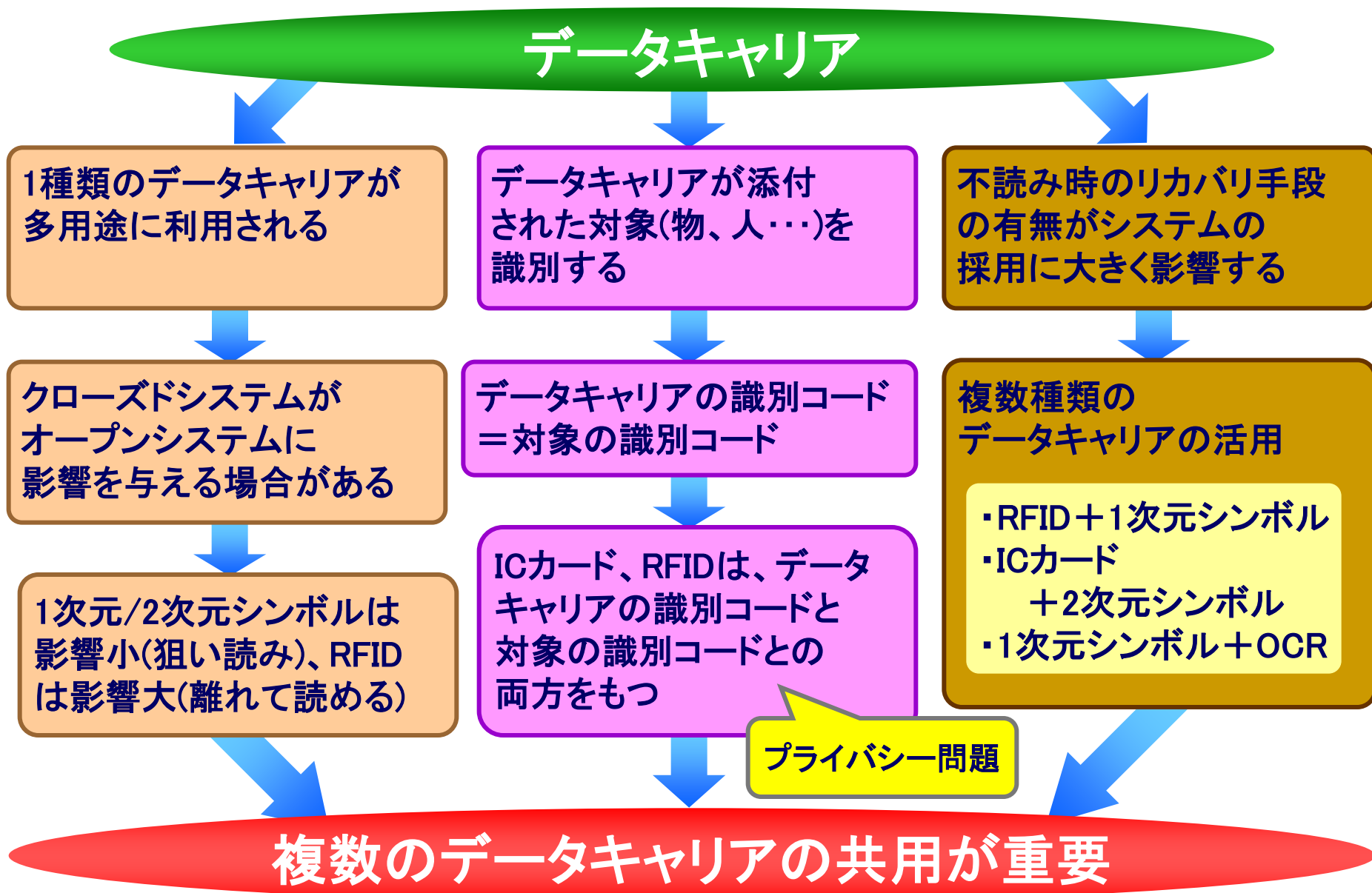
- 集中型データベース
- ネットワークシステム
- クローズドシステム



## RFIDの特長

離れて読める(読み取り作業が不要)、複数同時読み取り、データが追記できる、セキュリティレベルを高くできる

# データキャリアの本質





**ご清聴、ありがとうございました。**